

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会  
第 246 定例会・会議録

日 時 令和 5 (2023) 年 12 月 6 日 (水) 18 : 30~20 : 30  
場 所 柏崎原子力広報センター 2F 研修室  
出席委員 相澤、阿部、飯田、岡田、小田、小野、細山、三宮、品田、須田、  
竹内、西村、三井田潤、三井田達毅、水品、水戸部、安野  
以上 17 名  
欠席委員 本間  
以上 1 名  
(敬称略、五十音順)

その他出席者 原子力規制委員会原子力規制庁柏崎刈羽原子力規制事務所  
渡邊 所長 武岡 原子力運転検査官  
資源エネルギー庁 前田 原子力立地政策室長  
資源エネルギー庁 柏崎刈羽地域担当官事務所 関 所長  
新潟県 防災局原子力安全対策課 倉島 課長補佐  
上松 主任  
柏崎市 危機管理部防災・原子力課 吉原 課長  
金子 課長代理  
刈羽村 総務課 高橋 課長補佐  
三宮 主任  
東京電力ホールディングス (株) 稲垣 発電所長  
櫻井 副所長  
古濱 原子力安全センター所長  
松坂 リスクコミュニケーター  
南雲 新潟本部副本部長  
菱川 第一保全部長  
曾良岡 土木・建築担当  
佐藤本社リスクコミュニケーター  
原田 地域共生総括 G (PC 操作)  
柏崎原子力広報センター 堀 業務執行理事  
近藤 事務局長  
石黒 主査  
松岡 主事

◎事務局

会議に先立ちまして、去る 11 月 20 日にお亡くなりになられた高橋新一委員のご冥福をお祈りし、黙とうを捧げたいと思います。皆様、ご起立をお願いします。

— 黙 祷 —

黙祷を終わります。ありがとうございました。

それでは、ただ今から、柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会、第 246 回定例会を開催します。

本日の欠席委員は、本間委員、1 名です。

それでは、配布資料の確認をお願いします。

事務局からは、「会議次第」、「座席表」、以上です。

次に、オブザーバーからは、原子力規制庁から 3 部、資源エネルギー庁から 2 部、新潟県から 1 部、柏崎市から 1 部、刈羽村から 1 部、東京電力ホールディングスから 2 部。以上ですが、不足がございましたらお知らせください。

それでは、三宮会長に進行をお願いします。

◎三宮 議長

はい。改めまして、皆さん、こんばんは。今ほどは、高橋副会長に黙祷をありがとうございました。私は、会を代表してお通夜に参列させていただきました。非常に残念ではありますが、改めましてお悔やみを申し上げるとともに、心からご冥福をお祈りしたいと思っております。

それでは、議事に入りたいと思います。

第 1 部「前回定例会以降の動き」の説明の後、質疑応答に入りたいと思います。いつものように東京電力さん、規制庁さん、エネ庁さん、新潟県さん、柏崎市さん、刈羽村さんの順番でお願いしたいと思います。

それでは東京電力さん、お願いします。

◎櫻井 副所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、東京電力の櫻井でございます。

それでは、当社の資料、第 246 回地域の会定例会資料「前回定例会以降の動き」と記載しましたものをお手元にご用意いただきたいと思います。

最初に不適合関係ということで、説明させていただきます。11 月 9 日、核物質防護に係る不適合情報、資料は 3 ページをお開きいただきたいと思います。こちらの中段部のところにありますが、5 月 16 日、ID カード発行の際、個人の信頼性確認が有効期限内であるかを確認しておりますけれども、協力企業作業員の ID カード発行時に有効期限が切れたまま発行したことを確認しております。原因は発行者が有効期限を見間違えたこと、

当該作業員が福島第一原子力発電所で信頼性確認の有効性期限を更新していたものの、発電所ごとに更新が必要であることの認識がなかったこと等判断いたしました。

対策として、有効期限の管理方法、確認手順を見直すと共に、更新手続きの必要性を周知しております。

次に、6ページの公表区分ⅢのNO.1をご覧くださいと思います。9月16日、防護区域境界の点検で、警備員が未許可のスマートフォンを発見しております。調査の結果、入域する所員がバックの中にスマートフォンがあることを失念していたこと、手前の周辺防護区域境界の点検で警備員が確認手順を一部省略していたこと、防護区域境界の点検では警備員が手順を順守していたことで発見できたことを確認しております。対策として、警備員の方々の対話会で核物質防護の本質を伝え、手順の確実な実施を指示しております。併せて、全所員、協力企業作業員に不要な物品を持ち込まないこと、持ち込み物品の事前確認の徹底を周知しました。その他の事案については後ほどご確認をお願いしたいと思います。

次に、11月14日、7号機使用済燃料プールにおける燃料洗浄装置部品落下の可能性について、及び同日、同時案の続報について、並びに発電所に係る情報に飛びますけれども、11月21日、7号機使用済燃料プールにおける燃料浄化装置部品落下の可能性について、さらには、11月28日に7号機における燃料洗浄作業の完了について、資料は14ページをお開き頂きたいと思います。

こちらは、11月13日に98回目の燃料洗浄を行っていたところ、装置の動作に異常を確認し作業を中断、その後、水の流れる方向を制御する装置内のナットが外れていること、当該装置が設置されている箱の内部にそのナットがあることを確認し、回収しております。原因はメーカーによる当該ナットとボルトを固定する接着剤の塗布量が不十分で、作業中のピストン動作でナットが少しずつ緩み、外れたものと推定しました。対策として、緩み止め効果が高いナットに変更した上で、接着剤が確実に塗布されたこと、併せて燃料洗浄装置全体を再点検し、緩みがないことを確認しております。

資料の17ページをご覧くださいと思います。今、ご説明したような対策を講じた上で燃料洗浄作業を再開し、11月27日に作業を完了しております。その結果、ワイヤブラシの素線と推定される物が3本、燃料に影響を与えることがない塗膜片などと推定される物を回収しています。

次に、11月21日、5号機原子炉建屋管理区域における水の漏えいについて、資料戻りますが9ページをご覧くださいと思います。

11月20日、5号機原子炉建屋地下中3階の炉水サンプリングラック室、こちらで水質分析作業のため、当社社員が当該室の外で弁の操作を行い室内に入りましたところ、導電率系から約1.2リットルの水の漏えいを確認しました。直ちに弁を閉め、漏えいは停止しております。漏えいした水の放射エネルギーは $1.03 \times 10^{-5}$ ベクレルでございました。また、当社社員に放射性物質の付着はなく、水は漏えいの拡大を防止するための堰内に留ま

っており、外部への放射能の影響はございません。今後、原因調査と再発防止対策を講じて参ります。

次に 11 月 22 日、柏崎刈羽原子力発電所における核物質防護に関わる不適合事案について、資料は 11 ページをお願いします。11 月 22 日の原子力規制委員会で、核物質防護に関する原子力規制検査の実施状況が報告され、柏崎刈羽原子力発電所の個人の信頼性確認結果の見誤りによる防護区域への一時的な入域事案について、現時点での暫定評価として安全上の重要度緑、違反の深刻度レベル 4 の判定を受けております。また、本年 8 月に暫定評価を受けました、核物質防護用の照明設備に係る事案については、安全上の重要度緑、違反の深刻度レベル 4 の判定を受けています。

めくっていただいて資料 12 ページをご覧くださいと思います。こちらは暫定評価を受けた事案の概要となります。10 月 2 日、規制要求に基づき薬物検査等を含めた信頼性確認を行い、入域の許可を得ている人に対して継続的な信頼性確保の観点から抜き取りでの薬物検査、いわゆる薬物抜き打ち検査で陽性を示した受験者に対して、社員見張り人が陰性と見誤り、防護区域内に一時的に入域させた事案を確認しています。検査後、別の社員見張り人が見誤りを確認し、関係者に報告後直ちに当該受験者を退域させ治安機関へ引き渡しております。その後、治安機関の検査で陰性であることを確認しています。原因は、社員見張り人への薬物検査に関する指導、教育が不十分で、薬物検査の判定に関する理解が不足していたと考えております。

対策として社員見張り人への教育を行い、今後も定期的に教育を実施して参ります。また、薬物検査や再入域の判断に関するマニュアルや手順について、より分かりやすく記載を明確化しております。

次に、発電所に係る情報です。11 月 24 日、柏崎平野周辺における地質調査について、資料は 16 ページ上段をご覧くださいと思います。これまで、当社が発電所構内を始める柏崎平野周辺で実施して参りました地質調査結果に、2019 年度の軽井川地区で実施したボーリング結果を追加し、この地域の知見、地質の成り立ちについて学術研究成果として取りまとめ、2022 年 12 月に専門学術誌へ投稿しています。この論文は、確認された火山灰データを拡充することで、柏崎平野周辺に分布・構成する地層の年代を明確にしたものでございます。

一方で、当社が示した分布について査読の結果、科学論文としては一部データが不十分とする指摘があり、論文としては不採用となっております。資料 16 ページ下段の絵をご覧くださいと思います。

今回データの不十分とされた「飯縄上樽 c テフラ」については、6・7 号機の地盤審査で用いられました、真ん中にあります「阿多鳥浜テフラ」よりも新しい地層内にありますことから、新規基準に伴う発電所の安全審査結果に影響を及ぼすものではないと考えております。

次に 12 月 5 日、柏崎刈羽原子力発電所の保安規定変更認可申請について、資料は 18 ペ

ージをご覧ください。こちらは、他社の新規規制基準適合性に関する審査会合におきまして、重大事故等対処設備相当の耐震性などの耐性を有していない自主対策設備、こちらについては運転上の制限を逸脱した場合に要求される、措置完了までの時間の延長に活用できないという見解が示されましたことから、11月21日に開催された審査会合におきまして、当社設備に関する説明を行うと共に、保安規定の記載を適正化するための、今回申請をしています。

次に、その他ですけれども、柏崎刈羽原子力発電所の取組事項に関しましては、今月は広報誌「ニュースアトム」について紹介していますので、コミュニケーションブースの開設と合わせて、後ほどご覧いただけたらと思います。

次に、福島第一原子力発電所に関する主な情報につきましては、本社リスクコミュニケーター佐藤から説明いたします。

◎佐藤 本社リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

続きまして、福島第一の廃炉の状況につきまして、東京電力ホールディングスの佐藤が説明します。資料は、先月30日に行われました、「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」になります。今回は、「ALPS 処理水海洋放出の状況」と10月25日におきました増設ALPS配管洗浄作業での身体汚染について説明します。

資料2枚目の左上をご覧ください。ALPS 処理水の海洋放出の状況になります。先月2日から今年度第3回目の海洋放出として、測定・確認用設備のタンクA群からALPS 処理水の放出を開始し、先月20日に終了しています。放出量は7753 m<sup>3</sup>、トリチウム総量は約1兆Bqでした。放出期間中、東京電力が毎日実施する海水のモニタリングの迅速な測定結果などから、計画のとおり安全に放出が行われていることを確認しています。また、国、福島県、東京電力で実施している海域モニタリングにおいても、異常は認められておりません。

資料の4枚目の上段をご覧ください。こちらは、2023年度の放出計画を示しております。本年度は既に3回目の放出が完了しており、現在、第4回の放出に向けてK4エリアのタンクE群、それからK3エリア、タンクA群から測定・確認用設備B群への移送を行っているところがございます。今後とも最大限の緊張感をもって進めて参ります。

続きまして、増設ALPS配管洗浄作業における身体汚染発生について説明します。本事業案につきまして、地域の皆様、広く社会の皆様にご心配をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。資料4枚目の下段をご覧ください。点検停止中であつた増設ALPS、B系の受け入れタンク設備と吸着塔の間にありますクロスフローフィルタ出口配管内に溜まった炭酸塩を硝酸で溶かして洗浄する作業を、10月24日から25日にかけて実施しておりました。左の図の赤い線のところ、これが洗浄対象の配管です。下の薬注ポンプから洗浄薬液、いわゆる硝酸を注入し緑色の仮設のホースを通りまして洗浄廃液が受け入れタンクに溜まるものです。

25日の作業において、配管内部に溜まった炭酸塩と洗浄薬液、硝酸ですけれども、こ

ちらの反応によって発生した炭酸ガスと洗浄廃液が受け入れタンク内のホースタンクから勢いよく排出されることにより、タンクからホースが飛び出し、近傍で作業を実施していた作業員2名に洗浄廃液が飛散し、汚染したものでございます。さらに、飛散した洗浄廃液の清掃及びアノラックという合羽のようなものですけれども、こちらの脱衣補助を行った作業員2名も汚染をしています。

その後除染を行いました。洗浄廃液が飛散し汚染した2名につきましては、退出基準4ベクレル平方センチですが、これ以下まで除染できなかったということで、福島県立医科大学付属病院へ搬送しております。この2名は診断後に入院し、病院での処置を受けた後10月28日に退院しております。元受企業である東芝エネルギーシステムズによりますと、2名について体調面に問題はなく、汚染部位の皮膚にも特に異常は確認されてないと伺っております。

今回の事案の原因は、発生した炭酸ガスのみをタンクへ排出させるため、予定になかった操作として、弁を全開から微開にしたことにより炭酸塩が一時的に閉塞し、配管内の圧縮が上昇、その後、炭酸塩の溶解により閉塞が緩和されて、急激に炭酸ガスと洗浄廃液が排出されたことや仮設ホースの固縛位置がタンクから離れていたこともあり、仮設ホース先端がタンクから飛び出したものと推定しています。

また、作業班長が不在で元受企業の工事担当者や放射線管理員の指示不足により適切な防護装備を着用していないなど、当社が元受企業に対して契約上求めている要求事項が一部遵守されていなかったことを確認しています。

福島第一の運営主体である当社としても今回の事態を重く受け止めており、元受企業に対しては作業計画や防護装備を含む現場の管理等が適切になるように是正を求めています。併せて今回の事案を踏まえた再発防止策を検討・実施すると共に、他の作業への水平展開を通じて廃炉作業における安全確保に万全を尽くして参りたいと考えています。

福島第一の廃炉の状況の説明は以上となります。

◎櫻井 副所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

すいません。最後に、前回11月10日の地域の会情報共有会議におきまして、当社へのご意見にお答えできなかったものがございましたので、口頭で回答させていただきたいと思っております。

まず、相澤委員からは福島第一原子力発電所の処理水について、「政府の話では説明が終わったということであるが、誰一人そうは思っていない」また、「東電はいつもお金だけ出せばいいと思っているのではないか」というご意見を頂戴しています。当社としましては、ALPS処理水の海洋放出により被害が発生した場合には、迅速かつ適切な賠償に取り組むことはもちろんのこと、新たな風評を生じさせないよう設備運用の安全、品質の確保、迅速なモニタリングや正確で分かりやすい情報発信、IAEAレビューなどを通じた透明性の確保、風評対策にも全力を尽くして参る考えでございます。

また、三井田潤委員からは「所内蒸気を通気していく場合にウォーターハンマーによる

損傷などに十分気をつけてほしい」、「ベント操作時の汽水共発キャリアオーバーが心配。プラント起動、停止時のハウスボイラー運転も留意してほしい」といったご意見をいただきました。三井田委員のご意見のとおり、そういった点に留意しながら作業を進めて参ります。また、過去の経験を網羅した手順書が整備されており、ノウハウを含め操作に携わる者すべてで確認し、慎重に操作をして参りたいと考えています。ご意見ありがとうございました。当社からの説明は以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、規制庁さんお願いします。

◎渡邊 柏崎刈羽原子力規制事務所長（原子力規制庁）

柏崎刈羽原子力規制事務所の渡邊です。

本日、規制事務所からは資料を3部お配りしております。まず「前回以降の原子力規制庁の動き」に基づき、最近の状況、動きについて報告します。

委員会関係です。いくつか記載しておりますが、本日はこの内2点紹介します。

まず1つ目ですが、真ん中あたりに11月22日と書いてございますけれども、第46回・第47回の原子力規制委員会におきまして、令和5年度第2四半期の原子力規制検査の結果について報告がございました。検査結果については、これまでもご説明したことはございますけれども、四半期ごとに取りまとめていまして、また、情報管理の観点から原子力施設安全及び放射線安全というものと核物質防護の2つに分けてその都度報告書を作成し、別々に委員会へ報告しているという状況です。

柏崎刈羽原子力発電所の検査結果ですけれども、原子力施設安全と放射線安全の分野では特に問題はなく、検査指摘事項はなかった一方で、核物質防護については検査指摘事項が1件確認されています。こちらについては、先ほど東京電力から一部紹介がございまして、重複するところがありますけれどもご紹介します。

資料の「令和5年度第2四半期の原子力規制検査等の結果（核物質防護関係）」をご覧ください。

1ページの真ん中あたり、枠囲いしてある箇所に記載していますが、第2四半期としては、防護区域境界扉の監視用照明装置が一時稼働していなかった案件、簡単にいえば照明装置の電源が抜けていて、夜間、一部エリアの監視に支障があったということで、検査指摘事項としています。

こちらについては、規制庁で定める判断基準に基づいて、発電所に対する重要度を緑とし、検査指摘事項としては一番低いレベルと評価しています。本件については、資料の別紙2、4から5ページに詳細を記載しておりますので、確認いただければと思います。

同じ資料の6ページから7ページをご覧ください。こちらは、現在実施中の第3四半期の原子力規制検査で新たに事案が発見され、その状況について委員会に報告したものです。本事案についても、先ほど東京電力から紹介がございましたが、10月2日に発生した、個人の信頼性確認の一環として実施した抜き打ちの薬物検査で陽性反応を示した

社員を、発電所の防護区域に入域をさせた事案です。防護区域というのは、8ページにイメージ図を付けていますので、そちらを見ていただければと思います。

尚、発電所で行なった薬物検査の後、治安機関の詳細な検査では陰性だったということで、最終的に結果は擬陽性であって薬物の問題はありませんでした。我々として問題だと思っているところが、陽性の疑いがある社員を短い時間ではあるけれども防護区域に入れた事実などから、まだ検査を実施中ということで暫定にしていますが、重要度評価を用いて緑という検査指摘事項として判断しています。

今お話した信頼性確認や薬物検査は、なんでそもそもやっているのかということに関しては、簡単にいえば発電所で働く人は本来発電所の安全目的のために働くのですけれど、状況によっては発電所の施設や機器を破壊するとか、核燃料を盗取する、そういったことを起こす心配が無いように、内部脅威の観点から事前に確認するプロセスということなんです。

もう一つ委員会関係をご紹介します。12月6日、本日の午前で開催された第51回原子力規制委員会で、令和3年度から実施してきた核物質防護に係る事案の追加検査が、今回、規制庁の検査としては終わったことからこれを報告し、もう1つ今年8月から実施してきた東電の適格性の再確認について、報告書を取りまとめて報告しています。その報告に基づいて、今日の委員会で審議された内容が、資料3「東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所に係る原子力規制委員会の今後の対応」になります。

こちらについては、規制庁からの検査結果報告書を踏まえて、今後、委員会としてどういった判断、対応をするかということ審議していますが、まず1つ目、核物質防護に係る追加検査については、東電の改善措置が適切に取られているという判断がされています。また、適格性確認についても、規制庁の確認が終了し保安規定で定める7つの基本姿勢に対して取組がしっかり実施されていると判断しています。

また一方で、今後の進め方に関しては同一の委員会で審議をされていて、最終的な判断を行う前に山中委員長と伴委員が現地調査を行うとともに、東京電力の小早川社長に規制委員会に来ていただいて意見交換を行うことが決定されています。最終的には、これらを踏まえた上で追加検査等を終了するのか、検査区分を変更するのかという判断を行うことにしています。

尚、現地調査と小早川社長との意見交換の具体的な日程については、現在、東京電力と調整中で確定していませんが、早々に実施する予定です。

また、今回、委員会で報告のあった報告書案は、非常に大部となっていてお配りしていませんが、可能であれば改めて確定した際に時間を取って説明させていただければと思っています。

その他、原子力規制庁の動きとしていくつか記載がございますが、説明は省略します。私からは以上になります。

◎三宮 議長



はい、ありがとうございました。続きましてエネ庁さん、お願いします。

◎関 柏崎刈羽地域担当官事務所長（資源エネルギー庁）

資源エネルギー庁柏崎刈羽事務所の関です。

前回定例会以降の資源エネルギー庁の動きについてご説明いたします。1枚目ですが、第1回「青森県・立地地域等と原子力施設共生の将来像に関する共創会議」を11月28日に開催しました。こちらは経済産業省として、国・立地自治体等、事業者等が一体となり、地域と原子力施設が共生していく将来像について共に考え、共に築き上げていくための場として立ち上げたものです。

続きまして、令和4年度エネルギー需給実績を取りまとめています。速報ですので、まだ確定ではありませんが、ご紹介します。別に配布した資料の1ページ目のところですが、最終エネルギー消費については前年比で、マイナス2.9%となっており、2013年と2022年の比ではマイナス15.5%となっております。

委員の皆さまからよくお問合せいただくので簡単にご紹介させていただきますが、2枚目の裏側ですが、1番上に参考4、エネルギー転換部門と書いており、その中ほどの「電源構成と最終電力消費」の表で、発電電力量の比が、原子力、石炭、天然ガス等について記載があります。原子力については前年比でマイナス20.8%、石炭、天然ガスはそれぞれマイナス3.0%、マイナス4.4%となっております。石油等についてはプラス7.7%、太陽光についてはプラス7.6%と引き続き増加しています。簡単ですが、説明は以上です。

続きまして、また資料に戻り一番下のところですが、燃料（LNG）の安定供給確保に向けて電力、ガス事業者、資源開発事業者、商社との第3回官民連絡会議を開催しています。経済産業省としては燃料・LNGの安定供給の観点から電力、ガス事業者、資源開発事業者、商社との第3回官民連絡会議を開催し、電力・ガスの需給の状況や燃料を取り巻く国際情勢等について、現状認識を共有し、燃料ひっ迫時には官民一体となって対応することを確認しています。

以上です。残りは時間の関係で説明を省略させていただきます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして新潟県さん、お願いします

◎上松 主任（新潟県・防災局原子力安全対策課）

新潟県原子力安全対策課の上松と申します。右肩に新潟県と書いてある「地域の会前定例会以降の動き」というA4、1枚ものの資料をご覧ください。

まず1番目として、安全協定に基づく状況確認です。11月13日に柏崎市さん、刈羽村さんと共に発電所の月例の状況確認を実施しました。主な確認内容としては2点書いてありますが、換気空調系の吸排気フィルタの破れ事象について、対策の効果の経過観察を行っている2号機原子炉建屋、換気空調系中性能フィルタの現場確認を行い、事象の原因や対策の実施状況について、説明を受けました。

もう1点、ホウ酸水注入系について、系統概要の説明を受けると共に、2号機のホウ酸

水注入系ポンプの現場確認を行いました。

2点目としましては、福島第一原発事故に関する3つの検証の総括報告書等についての説明会を実施しました。

県が取りまとめ、9月13日に公表した「福島第一原発事故に関する3つの検証、総括報告書」と「柏崎刈羽原子力発電所に関する安全対策の確認と原子力防災の取組の状況」、この2つの資料につきまして、11月29日に県民の皆様への説明会を開催しました。また、12月25日にも同じ内容で説明会を開催致します。こちらについては参加申し込み期限は12月18日までとなっております。説明会の情報については、下記ホームページに資料を掲載しておりますので、後ほどご確認いただければと思います。

説明は以上になります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして柏崎市さん、お願いします。

◎金子 課長代理（柏崎市防災・原子力課）

柏崎市防災・原子力課の金子でございます。

柏崎市危機管理部防災・原子力課と書いてある資料に基づきまして説明させていただきます。

1、安全協定に基づく状況確認 11月13日に新潟県さん、刈羽村さんと共に発電所の月例の状況確認を実施しております。状況確認の内容につきましては新潟県さんの説明の通りでございます。

2、市町村による原子力安全対策に関する研究会実務担当者会議、11月17日に開催され、新潟県から原子力防災に関する説明がありました。内容は、福島第一原発に関する3つの検証の総括についてと柏崎刈羽原子力発電所に関する安全対策の確認と原子力防災の取組状況についてでございます。

3、第16回柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会が12月1日に開催されております。柏崎刈羽地域の緊急時対応案の進捗状況等について議論が行われました。以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。それでは最後に、刈羽村さんお願いします。

◎三宮 主任（刈羽村総務課）

刈羽村総務課の三宮です。資料を1枚配布させていただいております。前回定例会以降の動きですが、11月13日に安全協定に基づく月例状況確認を新潟県さん、柏崎市さんと共に実施致しました。また、11月17日に、市長村による原子力安全対策に関する研究会実務担当者会議に出席致しました。12月1日には、第16回柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会に出席致しました。詳細については、新潟県さん、柏崎市さんとの重複になりますので資料を確認いただきたいと思います。以上となります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。

それでは、ここからはですね、前回定例会以降の動きの質疑応答に入りたいと思います。発言のある方は挙手の上、指名された後に、お名前を名乗ってから発言をお願い致します。それではどうぞ。はい、品田委員、どうぞ。

◎品田 委員

荒浜 21 フォーラムの品田です。よろしくをお願いします。

資源エネルギー庁さんにお伺いしたいのですが、資料の 1 ページ目の下の表がご覧いただけますよね、その中で、最終エネルギー消費で石炭、石油、天然ガス、いろいろあって下から 2 番目に熱ってあるのですけれど、この熱ってというのはどういったエネルギーなのかということと、一番右の欄に 2022 年と 2013 年の増減率が示されておりますが、2013 年と比較したのには何か特別な理由があるのでしょうか。その 2 点、お願いします。

◎三宮 議長

はい、エネ庁さん、お願いします。

◎関 柏崎刈羽地域担当官事務所長（資源エネルギー庁）

品田委員、ご質問ありがとうございます。質問の 1 ページ目の「熱」についてですけれども、大変申し訳ございません。こちら、今、手元に資料がないので、申し訳ございませんが、次回に改めて確認をして、回答させていただくということでお願いできますと幸いです。

2013 年度と比較している理由については、基本的には約 10 年前ということで比較をさせていただいております。以上です。

◎三宮 議長

はい、それでは次回また、資料をお願いします。他にある方、はい、竹内委員、どうぞ。

◎竹内 委員

竹内です。よろしくをお願いします。

原子力規制庁と東京電力に意見と質問です。原子力規制委員会で核防護について追加検査は適切に対応が取られていると、7 つの約束はしっかり守れているということを確認したということなのですけれども、これまで東電から発表されるような不祥事やトラブルの内容を考え、思い起こすと到底納得がいけない内容なのですが、どこかでこれをまた詳しく説明していただきたいなと思います。これはお願いです。

東京電力ですけれど、6 ページの下の方の 4 番に書いてある扉は正常に作動しないことを確認したということがあるのですけれども、これは動いていたものが動かなくなったということで、すぐに対応したということだと思えるのですけれども、動かなかった期間というのはそんなにはないのでしょうか。ずっと気が付かなかったとか、そういうことではないのかということをお伺いします。そしてもう 1 つ、東京電力ですが福島で ALPS の機械で汚染が生じてしまったというあたりで、ああそうか ALPS というのは核物質を濾していくような役割をしているから、ALPS の中はかなり汚染度が高くなるのだということ

を改めて思ったのですけれども、ALPS の洗浄液や ALPS の機械そのものをきれいにした残った放射性物質はどのように処理していくのかというあたりを、今回じゃなくていいので教えていただきたいのと、本当に東京電力の社員とか、関連企業の社員の安全を守ることが第一で、その上で地元の安全があると思うので、これは福島の事象ではありますが、協力企業の方がこのような被ばくをしてしまうことが無いように、今後気をつけていただきたいなというお願いです。以上、3点です。

◎三宮 議長

はい、それでは質問は東電さんということで、お願いします。

◎櫻井 副所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、東京電力の櫻井でございます。ご質問ありがとうございます。

最初に、資料 6 ページの公表区分その他の 4 番のところの扉の件かと思うのですけれども、申し訳ありません、こちらのほうちょっと詳細の内容が今は説明が出来かねますので、次回、ご説明させていただきたいと思います。申し訳ありませんがよろしくお願い致します。

◎佐藤 リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

東京電力の佐藤でございます。ご質問ありがとうございます。どうやって汚染を処理するかということにつきましては、廃液、当然、汚染物質がたくさん含まれておりまして、そちらにつきましては、硝酸で洗っておりますので、それまで 1 回中和をしまして、それをまた、最終的には ALPS を通してその汚染物質を取ることになります。それと、今回、福島第一でこのようなことが起こってしまっても大変申し訳ございません。当社としても福島の運営主体として、請負会社等につきましてはきちんと遵守、当社の入域事項を遵守していただけるようにして行くと共に、我々としてもきちんと現場を確認していきたいと考えています。

◎三宮 議長

はい、竹内委員。

◎竹内 委員

はい、竹内です。硝酸を中和してまた ALPS を通すってことなのですが、そうするとまた ALPS に汚染が溜まりますよね。最終的にその ALPS に溜まった汚染はどういう処理になるのかが聞きたいので、口頭でも結構なのですが、図で次回教えていただければ理解が深まると思います。よろしくお願い致します。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん、どうぞ。

◎佐藤 リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

とりあえず、まずは口頭でご説明しますと、その ALPS に前処理設備と吸着材の吸着塔というのがありまして、そちらで放射性物質を取っているのですが、まず、前処理設備で溜まった放射性物質については、高性能容器ヒックと呼ばれるものに放射性物質を

移し保管します。吸着塔も、当然放射性物質が大量に吸着しておりますので、そちらも同じようにヒックと呼ばれる高性能容器の中に入れて、保管をしていくというような状況でございます。

◎三宮 議長

はい、竹内委員。

◎竹内 委員

竹内です。そうすると、そのヒックという容器で最終的には埋めるとか、そういうことなのでしょうかね。最終的に処分するのは放射性廃棄物としてどこかに埋めるとか、そういうふうになるのですか。

◎三宮 議長

はい、どうぞ。

◎佐藤 リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

東京電力でございます。まだ、処分の方法は最終的には決まっていらないのですが、水分もありますのでそういうのをきちんと漉して、固体化処理をして処分していくということで、今は保管をしております。今後、処分の方法を含めて検討して参るという状況でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。また、細かい図で説明できるものがあれば、来月でもご提示いただければと思います。

◎佐藤 リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

分かりました。

◎三宮 議長

竹内委員からお話があった、先ほど規制庁の渡邊所長がおっしゃいましたけれども、今日の今日なので、ある程度お話、報告できる内容がございましたら、また運営委員会でもお話をさせていただきますけれども、また時間を取りたいと思います。

どうぞ。

◎渡邊 柏崎刈羽原子力規制事務所長（原子力規制庁）

規制事務所の渡邊です。今ほど竹内委員からお話がありました、1つは追加検査の報告書、もう1つは適格性再確認の報告書、こちらについては、まだ案が取れた状態ではなくて、今後、山中委員長、伴委員の現地調査もあります。手続のプロセスとして、事実関係の確認を東京電力に対して行うので、まだ、報告書が変わり得るということで、今日、この時点では速報としてお話をいただいています。詳細については、日を改めてしっかりと説明をさせて貰えればと思います。また、具体的な日程については、運営委員会で調整させていただきます。

◎三宮 議長

はい、よろしく申し上げます。他にある方いらっしゃいますか。はい、三井田潤委員、

どうぞ。

◎三井田潤 委員

三井田です。お世話様です。福島第一のALPSの件ですけれど、防護指示書を出していると思うのですが、そうすると予定外作業をするなどという指示がかかっている。なぜ、この予定外作業をしたのだらうという疑問が生じています。それと、安全の観点から見て、硝酸を使う時に目に入ったら危険なので、簡易的な洗顔設備があったのか。例えば、作業机の上に目をすぐに洗えるような装置があればいいのですが、非常に危険だと思います。安全のために必ず各現場を安全パトロールすると思うのですが、その際に全然指摘されなかったのか。ふつう洗眼設備があるのですか、なければ指摘したほうがいいと思うので、安全部の人も頑張ってやっていただければ良いと思います。

それと、企業協議会で特別教育や職長教育などをやっていますよね。できたら、第一種電気工事士の実技試験などの希望者に対する指導を、東京電力さんだったら電気のエキスパートなので、してもらったりすればいいと思うのですよ。地域の活動でよく清掃などしているのですが、市内で例えば電気工事士を受ける人がいて、もし協力できたらサービスホールの裏の研修室などで指導していただければ、地元の住民も、やっぱり東京電力っていうのはすごいなって感心しますので、自分の意見なのですが、ご検討ください。以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。意見ということで、他にある方いらっしゃいますか。飯田委員どうぞ。

◎飯田 委員

飯田です。ご苦労様です。東京電力さんにお聞きしたいのですが、16ページの「断層活動性評価への影響」とその論文の会議、私も地質や地学など、そういうことは全く詳しくない、全くの素人なのですが、前に査読中で詳しいことは答えられないというようなことで、民間の団体との討論会っていうのですか、会議の時にそういうお話だったのですが、今回、その論文を出されたけれども、ここではですね、査読の結果、科学論文としてはデータが不十分ですよと指摘があったというふうに書かれていますが、査読が終了し専門誌には掲載されなかったというふうには新潟日報で報道されているのを見ました。それに基づく、下の図だと思うのですが、その古安田層についても原子力安全規制委員会でしょうか、どこの委員会かわからないのですが、この古安田層という名称を、例え仮称であっても使うことは相応しくないというような指摘もあったと思うのですが、こここのところでは、仮称と書かれておりますけれども、古安田層ということで書かれております。その科学論文がデータ不足という指摘があった、そして、論文として掲載されなかったこととこの古安田層について、続けてこの表現をしていくのかどうか、ここを私は疑問に思ったものですから質問しました。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん。

◎曾良岡 土木・建築担当（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、東京電力の曾良岡からご説明させていただきます。まず、査読中にボーリングデータを公開できなかった件につきましては、先月の当社の定例会見においてボーリングデータ一式ご提示させていただいております。それから、古安田層という名前を継続して使用するかどうか、といった議論についてお話しします。発電所の安全性というのは、原子力発電所の場合は、安全審査での耐震性評価上考慮すべき活断層を、およそ12万年から13万年前以降活動した断層と設定していきまして、そういう意味では、今回、この図に書きましたとおり24万年前の火山灰が水平に堆積していて変位を受けていないことをもって、それ以降の発電所近傍での断層の活動がないことを説明しているものですから、その前提が変わるものではありませんで、発電所の安全審査の前提が崩れているわけではありません。その点について、この資料の中でご説明させていただいております。

ご質問にありました、古安田層という名称ですけれども、ご指摘の通りで、科学論文等で確定した名称ではありません。当社は審査の中で、その断層の活動性を説明するために便宜的に用いている仮称の名前です。といいましても、先ほどお話ししたとおり、その地層の名称というのが直接、発電所の安全性に影響を及ぼすものではありません。あくまでも一定の年代の地層に変形が与えられてないという事実をもって発電所の安全性が確認されています。今回、論文が認められなかったことから、引き続き知見の拡充の活動は続けていきますけれども、仮称の古安田層という名前は、当面の間、使っていくことになるかと考えています。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。はい、飯田委員どうぞ。

◎飯田 委員

断層の活動性を聞いているわけじゃないのですけれども、古安田層というのは東電さんが、これは安田層よりも古い層だからということで使われたと私感じているのですけれども、地層の名称は学会で決められたルールに従ってやらなければいけないと思いますので、仮称というかたちで名称を使用されることはいかがなものか、というのが私の意見です。

◎三宮 議長

はい、それでは意見ということで、聞いておいていただければというふうに思います。

はい、他にある方。三井田副会長どうぞ。

◎三井田達毅 委員

柏崎エネルギーフォーラム、三井田です。

私も東京電力さんに2点。1つ意見と2つ質問ですが、まず、12ページの一時的な入域について、先に意見をお話ししますと、せっかくこのダブルチェック、AさんとBさんが機能していたのに、両方のダブルチェックが入る前に入れてしまって、一時的にでも入れ

たのはちょっと残念だと思って、ぜひ、改善していただきたいなというところが意見です。

質問ですけれど、最終的には擬陽性でしたということですので、検査する機械は当然100%じゃないので、その機械ではどうしようもないことだったのか。それとも、不慣れで計測の仕方に問題があったということなのかを教えてくださいたいのが1点目です。

2点目が今ほど質問のあった16ページの地層の関係で、私の理解で合っていますかという確認ですけれど、結論としては査読してもらって論文掲載になりませんでしたということですので、東京電力さんとして、端的にいうと安全性の確認の部分でいろいろ重視しているところが、この図の真ん中の段の年代でいうと6~8と書いてある間のところを、名称はともかくとして、そこを重視した形で論文にしたのだけれど、そこではなくて上段の「飯縄上樽テフラ」というところがデータ不足で駄目だと言われたので、今回は掲載にならなかったということですが、要はそこに関しての指摘はなかったということで、なんていうのでしょうか、東電の中の評価の足しになったという理解でいいのかという2点、質問です。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん、お願いします。

◎古濱 原子力安全センター所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、三井田委員、ご質問どうもありがとうございます。1点目の質問につきまして、東京電力の古濱からお答えを申し上げます。端的に申しまして核物質防護に関することなので具体的にどういう検査のやり方をやっているかは申し上げられないのですが、検査の機械等が壊れていたわけではなく正常に機能しています。ここにございますとおり、社員見張り人Aがその結果を見誤ったというのが事実でございます。機械自体が壊れていたというわけではないです。

◎曾良岡 土木・建築担当（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、引き続きまして東京電力の曾良岡、地質の関係です。三井田副会長ご質問どうもありがとうございます。まさにご認識いただいた通りでございます。私共の論文では、この16ページの図でいうところの、黄緑色、古安田層というところの火山灰や堆積の年代を明らかにする目的で論文を整理いたしました。発電所の安全性はこの層序表の中のピンク色で書いている火山灰、阿多鳥浜テフラという24万年前の火山灰地層が動いているか動いていないかを判断しています。この点について、論文の中で指摘があったわけではございません。指摘があったのは、この層の青い字で書いてある、約13万年前の飯縄上樽cテフラという火山灰のデータの数が不十分だというふうなご指摘でありました。

ということで、発電所の安全性の肝は、ピンク色の24万年前の火山灰になりますので、私共の発電所の断層活動性評価に影響はないと考えておるところでございます。どうもありがとうございます。

◎三宮議長



はい、ありがとうございます。他に。はい、須田委員どうぞ。

◎須田委員

はい、男女共同参画の須田でございます。よろしくお願い致します。

私は東京電力さんに意見として申し上げたいと思うのですけれど、核防護など、いろいろなところで警備保障の方が業務にあたっているのを、私もずっと拝見しています。それで、重要な検査をされているというふうにはお見受けするのですが、いつ行っても男性の警備員の方なのですけれども、女性と男性の違いがあるのかというと、これまた性差別になりますのでちょっと申し上げられませんが、私も以前勤めていた時、消防署の監査等を受ける時に女性と男性と一緒に来られて、女性の検査官が来られた時は本当にきちっと指摘をされるという事案が大変多かったので、東京電力さんも女性の方も入れた警備体制にされたらいかかなと。私自身はいつ行っても男性の方なのですけれど、警備の問題の事案、不適合事案が起きるということは、一所懸命やっている割合には成果が上がっていないというふうに思っているのですが、意見として申し上げさせていただきます。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん、どうぞ。

◎稲垣 発電所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

須田委員、ご意見ありがとうございます。実は2021年の9月に独立検証委員会という委員会から、我々の改善措置についてコメントがあるのですけれども、この中に女性警備員をしっかりと入れるべきということがございまして、現在、委託の警備員さんの中にはかなり女性の警備員さんが入っている状況でございます。また、社員もセキュリティ管理部というところにはかなり女性を入れてきておりまして、ご指摘の点は核セキュリティに限らず、原子力安全につきましても、やはり女性の視点というのは男性とは違うというのは我々も強く感じておりますので、両方の視点で見るというのは非常に重要なご示唆だと思っておりますので、今後とも男女ミックスなかたちでございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。それでは、時間も過ぎているので、ここで第一部を終了させていただきます。ここから10分間休憩に入ります。換気をお願いしたいと思います。45分から再開したいと思いますので、随時休憩に入ってください。お願いします。

— 休憩 —

◎三宮議長

はい、それでは時間前ですけれども、皆様お揃いのようなので、第二部を始めさせていただきます。

第二部は11月10日に行われました「第245回定例会、情報共有会議を終えてのフリ

一トーク」と致します。初めに委員の方から、その後にオブザーバーの皆さんからもご発言をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

情報共有会議を欠席された方も、感想等フリートークなので、ご発言をお一人ずついただきたいと思っております。毎度で申し訳ないのですが、相澤委員からよろしくお願いします。

◎相澤 委員

はい。相澤です、よろしくお願いします。

結構有意義な会議だったと思います。皆さん、多種多様な意見を出してもらって参考になりましたし、知事さん、市長さん、村長さんの意見も聞けたので良い会議だったと思います。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、阿部委員、お願いします。

◎阿部 委員

新潟県に避難計画について、意見をしたのですけれども、質問ではなかったのが新潟県から回答がなかったのが大変残念だったと思います。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、飯田委員、お願いします。

◎飯田 委員

飯田です。私も今年から委員になって、初めて参加させていただきましたが、皆さんの意見、いろんな意見をお聞きして良かったと思っています。発言時間が4分ということだったので、時計を見たら4分にたっていたので、最後まで言うことができなかつたのですけれども、ちょっと大風呂敷を広げすぎたなということ、最後に言うつもりでございました。私の質問に対して東京電力さん、それから国から貴重な丁寧な回答をいただきまして、その後、少し勉強させていただきました。1つお願いしたいのは、東京電力さんの資料で、電気料金が自由化されてからの電気料金の設定の仕方で、私も認識を新たにさせていただきましたけれども、いわゆる販売、小売りしている電気料金ですが、その中で購入電力量というのがあるわけですが、この構成ですね、東京電力の発電会社とそれ以外のところからも若干購入されているのではないかと思うのですが、この電気料金をどのようにして算定されているのか、私にとっては全くわかりませんので、教えていただきたいと思って資料を見ていました。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。質問に関しては、また後日ということをお願いしたいと思います。続きまして、岡田委員、お願いします。

◎岡田 委員

岡田です。お願いします。

まずは初めて情報共有会議に出席させていただきました、いつもの定例会とは少し違

った緊張感を味わわせていただきました。意見はしっかり述べさせていただいたと思いますし、オブザーバーの方からは書面も含めて丁寧な回答をいただいたと思っておりますので、この場をお借りしまして感謝を申し上げます。

質問のところ、ちょっとさせていただいたのですが、内閣府さんに避難計画の立案の責任の所在がどっち付かずのような回答に感じるという件に関しましては、私の質問の内容も不勉強が故に良くなかったのかなと思いますが、少し残念に感じたところです。こういうふうに決まっているから、ということでは改善しないことがあるのではないかなというふうに思いまして、せつかく志があって、それでいて仕組みが悪いのであれば、それを改善していただきたいなと思うところです。仮にそうでないならば、仕組みのせいにしていただくのはどうなのかなと思うところです。

この会は、透明性を確保するというところで会の名称を謳っていますが、この会の議論の結果で実益となる部分が何かといえば、やはり改善を重ねることだと思います。仮に理想的でない仕組みというものがあるのであれば、そのフィルタをのぞいていただいて原子力発電所の議論の環境をより良くしていければいいなというふうに考えています。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、小田委員、お願いします。

◎小田 委員

はい、小田でございます。情報共有会議は何回か参加させていただいておりますけれども、やはり本当に、非常に、普段接することができないような方々に対して意見を述べさせていただける貴重な機会、数回出ておりますけれども非常に緊張する会でした。その中で、時代が移り変わってきていますので、内閣府さんの話が岡田委員から出ましたけれども、なかなか省内の縦割りのここがこういう管轄をしているところだけで割り切れない、多岐にわたる問題が出てきているのかなというふうに感じております。

そういう中で、我々本当に素人なので行政の皆さんから見ると、いやそれはそういうことではないんだよというのがあるのかもしれないのですが、もっと全体的にこうなったらいいねということだけを述べるだけなので、それが省にまたがることなのか単独の省で完結することなのかもわからない中で意見を述べているのですが、地元の要望として、これだけ電気料金が高騰している中で日本の電力の安定に、皆さん日々努力されているところかとは思いますが、本当にここ数年が今後の日本の電気の勝敗を分けるようなことに成りかねないのではないかなというふうに、個人的には思っております。また、皆様のご尽力をいただきながら、地元の経済界としても少しでも貢献出来たらと思っております。よろしく願いいたします。以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、小野委員、お願いします。

◎小野 委員

はい。松浜町内会の小野です。お願いします。

先回の情報会議は本当にありがとうございました。非常に有意義だったと思います。まず、地域の会の皆さんの、原発のある地元の声をしっかり聴いてもらった。その声もいろいろな16人の声だったと思うのですが、それぞれの立場であるとか個人の考えであるとかというふうなものを、地方の皆様や企業の皆さんに聞いてもらえたというふうに思っています。そういう点では、こちらの声をしっかり聴いてもらって良かったなというふうな思いはあります。

私はもう何回かこの共有会議に出ているのですが、回答がいつもこう同じような感じがします。「よし、こちらに任しておけ。」とか、力強い中央の皆さんの声が聴きたかったなというふうな思いがあります。「分かりました。しっかり考えます。」とか、もっと力強い声があっても良かったのではないかなと思いますし、それを聴きたかったなというふうな部分があります。

まあでも、こうやって毎年毎年やっているわけで、実は少しずつですが深く浸透して、目標に向かってはいるのだらうと思っています。本当にありがとうございました。

以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、細山委員、お願いします。

◎細山 委員

すいません、私も初めて参加させていただきました。子供みたいな感想で申し訳ないのですが、本当に緊張しました。緊張しすぎて残り時間が示されたボードのほうを見ることが出来ずに、ただ自分で黙々としゃべって、本当に聞いている皆さんに伝えられたのかなという、正直不安な気持ちが当時はありました。

私からは、東京電力さんと国に対して意見を述べさせていただきました。それで内閣府さんと資源エネルギー庁さんから回答をいただきました。内閣府さんからは、私が意見を述べさせていただいた避難路の整備というところについて、関係者との調整が付けば来年度からという、大まかではあるのですが、ある程度実施時期の見通しを示していただいただけでも非常に良かったなと思っております。また、資源エネルギー庁さんからも丁寧な回答をいただいて本当にありがとうございました。

とても貴重な機会を与えていただいた中でこんなことをいうのは申し訳ないのですが、1点だけ、情報共有会議の中で納得いかないところがあつて。先ほど、私が緊張したと言ったのですが、緊張していてその場でちゃんと聞いていなかっただけかもしれないのでこの場では言わないのですが、事務局で議事録を作っていただくので、それを見てまだ納得できないようでしたら、また事務局に問い合わせさせてもらおうかなというふうに思っております。私からは以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、品田委員、お願いします。

◎品田 委員

荒浜 21 フォーラムの品田です。よろしくお願いします。

3分半の原稿だったのですけれども、4分を超過したみたいでどうもすみませんでした。私の質問につきましては東京電力さんから大変丁寧に、また具体的に説明をいただきまして大変ありがとうございました。胸につかえていたものが取れたような気がして大変安心をさせていただきました。また、ニュースアトムの12月号でも未経験運転者の記事が掲載されていたようだけれども、今後もこのようなソフト面の情報を提供していただければと思いますのでよろしくお願いしますと思います。

それから、今日の議題ではないのですが、先週の全国紙の第1面のコラム欄に柏崎刈羽原発に関する記事が載っておりましたので、ちょっと読ませていただきます。

「日本書紀に、668年、現在の新潟県にある越の国から燃える水が献上されたとの記述があるという。明治時代に入り大々的に採掘されるようになった。新潟県柏崎市の一帯では多数の油田が開発され、一次は国内産出量の半分以上を占めるほどだった。柏崎市史には石油熱で狂乱す、との描写が残る。だが、昭和になると徐々に生産が鈍っていき、1973年に途絶えた。それから間もなく建設が始まったのが東京電力の柏崎刈羽原発だ。当地ゆかりの田中角栄元首相は首都圏に電気を送る代わりに、どんどん東京から金を送らせると地元で説いたとされる。先日、この施設を見学させてもらった。福島での原発事故の影響で10年以上も稼働していないが雇用は保たれている。とはいえ、給料さえもらえれば満足というわけではないだろう。言葉を交わした人たちからは、世の中に電気を供給するという本来の仕事が遂行できないもどかしさを感じた。この原発の再稼働を巡る国の審査は大詰めを迎えている。安全面はもちろん、働く人たちの心情も気にかかる。」という記事が載っていました。

この中で、その言葉を交わした人たちからは、世の中に電気を供給するという本来の仕事が遂行できないもどかしさを感じた、とこの記者は語っておりますが、この先もし再稼働したとするならば、地域の人たちの生活と生命を守っているのだという気概を持って業務に当たってほしいなと私は感じました。以上でございます。ありがとうございました。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、須田委員、お願いします。

◎須田 委員

はい、男女共同参画の須田でございます。よろしくお願い致します。

共有会議では、とても辛口な発言をさせていただきました。今現在、エネルギーミックスが非常に叫ばれているのですけれども、私たちは今現在と同じく部屋に入ってスイッチを入れれば必ず電気が付くということを保証していただきたいというふうに毎日思っております。そして、料金もいろいろなことを東京電力さんがやったことが全部電気料金に転嫁される青天井では、生活者はとても困る状況なので、なるべくコストを削減することではなく、もう少し的確にできるものは的確に進めていただいて、エネルギーミ

ックスを語るのであれば官民共にもう少し具体的に汗をかいて、高レベル廃棄物の問題など、いろんな諸問題を解決していただきたいと思います。そして、国が前面に立つということなので、国がもう少し積極的に、事業者に丸投げではなくて、やはり国が積極的に関わって、私たちの生活を守っていただきたいと思います。

以上です。よろしくお願いします。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、竹内委員、お願いします。

◎竹内 委員

はい、竹内です。私は、情報共有会議で福島原発事故後に形成された新たな安全神話というテーマでお話をさせていただきました。委員の皆様からも多角的な視点でいろんなお話が聞けて私も新たな発見がありました。事前質問として、原子力規制庁に古安田層についての質問をしたのですが、その時も、活断層の評価にはあまり影響しないものだから、今後名前の変更は求めないというようなことでお答えがあったのですが、今日の東京電力の資料を見ても、まだ古安田層（仮称）を使っているのだなというふうになんかちょっとがっかりしました。論文が不採用になったのであれば、影響がないのなら、古安田層などといって安田層より古いという印象操作をするのではなくて、堂々と学術上の名前を出して影響はないのですねと言っただけであれば、納得するかどうかはともかくとして印象操作されているような気持ちにはならないので、古安田層を使うことはやめた方がいいのではないのでしょうか、というのが私の意見です。

そしてもう 1 点、事前質問として県に原子力防災訓練についてお伺いしたのですが、知事は私の当日の質問が聞こえなかったということで当日の質問には触れられませんでした（事前質問にのみ回答）。併せて、県の姿勢は、今回の原子力防災訓練に関する私たちへの説明の姿勢は、本当に不誠実で非常に残念です。今後、地域の会の定例会で説明していただくことがあるかと思いますので、ぜひその場でしっかり説明していただいて名誉挽回していただきたいと思います。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、西村委員、お願いします。

◎西村 委員

はい、柏崎市小中学校 PTA 連合会、西村と申します。まず、地域の会 20 周年という節目の年にこの情報共有会議に出させていただきます。それぞれ丁寧に質問に回答されていて大変良かったなと思います。私の質問としては、再稼働に向けての地域、環境整備を早期に早急をお願いしたい、そういう思いで願いを込めての質問させていただきました。例年どうなのか、ちょっとわからないのですが、一般の参加者というか、参加者は報道関係が多かったのですが、一般の方はなんか少ないなというふうに感じました。つまり、少ないということは感心が薄い。地域の人々のこの原子力発電所のいろいろな今後について、特に今は原子力規制委員会の判断がこれから出るという、とても注

視していかなければいけない大切な時期なのではないかと思うのですけれども、関心が薄いような自分事ではなくて他人事として捉えている、そんな感じを私としては受けました。やっぱり、関心を高めていくことが大事なのではないかなと思っていますし、東電さんの不適正な事象ばかりが報道で出されているのですけれども、そればかりではなくて良いことがたくさんあると思いますので、東電さんだけではなくて、原子力規制庁さんとかエネルギー庁さんとか県とか、いろんなところでこの原子力発電所とか東電さんの素晴らしいところ、例えば社員さんがすごい、やりがいを持って活動、仕事をしているとか、夢があるとか、そういうふうなことも含めて SNS、特に若者は SNS だと思いますので、そういうところを東電さんだけじゃなくて、いろんな機関、行政が発信していてもいいのではないのかなというふうなことを感じました。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、三井田潤委員、お願いします。

◎三井田潤 委員

三井田です。この前参加して、非常に厳しい言い方をしたかなと思っていたのですけれども、お願いするということは通常の停止で、例えば交流電源さえあれば安全停止できるのは知っていますから、それを再度お願いしたという次第です。

通常であれば、例えば外部電源が喪失したとしても DG、オートピックアップしたりするわけです。それで通常の交流電源が効いて、正常な停止であれば最後に RHR 系という残留熱除去系などが動いて、AC ローダウンで 200t までいかないけれど、それで排水するので、十分冷却できるのは承知しています。そういうふうなかたちであれば、非常に我々は安心できるのですが、もし、交流電源が途絶えた時、直流電源だけになってしまうと、HPAC という装置と RCIC が動いたとしても、PLR ポンプが動いてないから水源が止まってしまうわけです。そうすると、例えば刀鍛冶が焼き入れする時に、鉄をジュッとやると気泡が出ますよね。もし、水流があればもっと冷却ができるのですが、PLR、再循環ポンプが止まるとできなくなる。そうするとブランケット効果で原子炉の中も良くないので、せめて 60 気圧から 10 気圧までは給水ができるけれど、交流電源がすぐ復旧して、なんとか通常の停止にもっていただければ福島第一みたいなことは起きないはずなので、それを再度お願いした次第です。

それと、僕が勤めている会社もそうなのですけれど、パソコンの仕事とかプレゼンとか、そういうものは得意なのですが、現場作業は全くできない。例えば、自分の会社も高圧ガスプラントがあるものですから、送水設備がこの前凍結して、エルボなどが割れました。検査で散水施設を動かさなければならぬので、その割れているものがあるとダメなので直せないかということで、自分も 35～56 歳まで設備をやっていて、要は配管工事業に携わっていたので、50A の配管だったのですけれど、僕が全部直しました。だから、いざという時には、やっぱり自分で直さなければいけない。だから、若い子が「僕はしたことがないから怖いです。できません。」これじゃ困ります。だから、できる人が昔の軍隊、

海軍の司令長官の山本長官みたいに、「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば人は動かぬ」というふうなことで、昨日、稲垣所長が出ている YOUTUBE を見ました。褒めてやるとか、いろいろなことを東電もやっていますので、そういうかたちをぜひとも継続していただきたいなと思います。

それと、改善、改善、改善、改善でやっていただければ、よい発電所になると思いますので、よろしくお願い致します。以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、水品委員、お願いします。

◎水品 委員

はい、刈羽村商工会青年部の水品です。情報共有会議、初めて参加させていただいたのですけれども、人間って緊張するとあんなに声が震えるのだと初めて経験させていただきました。それほどまでに緊張感が漂う、世間から注目されている大事な会議だったのだなと実感しているところでございます。そんな中、私からは放射線監視業務について所感と意見を述べさせていただいたところですが、内容としましては、この地域の農産物は安全ですよ、と放射能検査をきちっと行っていただいていることで、そういうことが証明されているのかなと思うのですけれども、それがちゃんと地域住民の方に伝わっているのかなってところについて、もっとプッシュして地域の放射線や放射性物質の調査状況や調査結果に関心を持っていただけるような取組をお願いしたいということで述べさせていただいたところでした。それについて、櫻井市長が私に返答いただいたというか、私たち自らが安心して食べられるものを提供していくことが、非常に重要だろうと言ってくれたのがとても嬉しかったです。それが感想ですけれども、今後とも、私も一農家として、どんどん地域の消費者の方に伝わっていきやすい仕組みづくりをしていただけるとありがたいなと思っています。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、水戸部委員、お願いします。

◎水戸部 委員

はい。柏崎青年会議所の水戸部です。私も初めて参加させていただきました。良かったなと感じた点としては、一応、組織から出てきているので、普段地域の会でやられている、議論されている内容を事細かにすべて所属団体のメンバーに共有できているわけではないですし、どちらかというとか何か大きなトピックスがあった時に共有するようなかたちで普段はやらせていただいているので、JC のメンバーが、地域の会でそういう話をしていのかとか、どんな雰囲気は何をしているのか、みたいなのが普段は見えづらいのだろうと思います。当日は、コアメンバー、結構な人数がきていただきまして、それを体感してもらえたのがすごく良かったなと思っています。その所属団体になるべく多くの情報を共有できるのが一番良いのですが、それも難しいので、ああいった場で所属団体のメンバーの意識醸成の機会になったということが一番の収穫だったかなと思っています。



ます。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、安野委員、お願いします。

◎安野 委員

南部コミュニティ協議会の安野と申します。今回、急な仕事が入ったものですから、出席出来なかったのですが、質問だけはお送りしていたものですから、回答もいただきました。ありがとうございました。

僕が言いたかったのは、僕らは南部協議会なものですから、協議会は不特定多数の方が皆さん居るものですから、一応どんな話をしているのかということでは会長あたりに話をしたところ、今回は安野さんの個人的な話で良いのではないですかという了解をもらったので質問を出しました。個人的な意見として、全く新しいものを作るわけじゃなくて、今現在あるものを使わないことが無駄ではないのかと思っています。

それはなぜできないのかというと、いろんな要因があるのでしょうけれども、まずそれをできるようにするという本気度を持ってやられたらいいのかなと思います。今の世の中で、完全なる安全なものはそうそうないですよ。車にしても食べ物にしても、完全なる安全なものというのはないですよ。今日も車が、茨城でしたかね、どこかに突っ込んで行って、車も使う側、使う人間がどうなのかということだけだと僕は思っています。原子力発電も、それをどうしても使っていくのだという、そういった本気度を持ってやっていただければありがたいなと思います。今年の秋ごろですか、今年の温暖化のことで学会発表がありましたよね。今年の夏の暑さは、エルニーニョだけの問題ではないのだと。化石燃料の部分がかなりの割合を占めているという学会発表もあったようですね。こんなに温暖化が進んでいる。だから今、世界的にもゼロミッションにしようということ動いているのであれば、原子力発電がそのゼロミッションに対して貢献度が本当にあるのであれば、早めに稼働させるべきだと僕は思っています。そんなことを話したいと思っていましたので、今日は時間をいただいて当日の話ができました。ありがとうございました。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、三井田副会長、お願いします。

◎三井田達毅 委員

柏崎エネルギーフォーラム三井田です。

私も委員としてはある程度の期を務めさせていただいたので、共有会議自体もかなりの数出させていただいている中で、今回の共有会議の感想として、委員の皆さんの多くの方が初めての参加ですという方もいらっしゃる中で、限られた時間できちんとまとめる努力をされている。私、何回か委員で出ているからには、自分の思いを限られた時間でまとめる努力もしなければいけないという話も何回かしていた中で、多くの方が時間内に自分の思いを伝える努力をきちんとされて、その場に臨んでいらっしゃるという部分では、非常にその良い意味で粛々と会が流れていくのが、地域の会が20年という節目に

して成熟されてきているのかなと、偉そうですけれど、そういった感想を持ちました。

私が委員になって、現会長は3代目の会長で、2代目の会長のところから参画させていただいたわけですが、本当に歴代の会長が、現会長も含めて醸成されてくる会の空気感というのですか、すごく良いかたちに会が流れてきているのかなと思いますし、この会のそもそもの主旨が、いろんな立場の人たちがテーブルに意見や苦言、提言、アイデア、いろんなものを乗せて、私たちと相対しているオブザーバーの方々がそこに乗っかっている。その意見や苦言、提言、注文、不安、いろんなことをどう料理していくかということにかかっているのだと思うのです。なので、そういった部分で会が正常に機能しているのかなという感想を持ちました。

会の流れの部分でいくと、内閣府さんとやり取りしている中で私も質問させていただいたのですが、やっぱり現地で、自治体の県、市、村の方々が避難計画の矢面に立って苦労している中で、応分の責任分担論じゃないですけれど、前に出てこれないのだったら権限を県、市、村に全権与えてくれているのかということそうではない中で、もうちょっと内閣府さんから積極的関与を表明していただきたいなという感想があります。ずっと申し上げているのですが、この問題に関して無関心な方もすごくいっぱいいらっしゃる中で情報発信が、興味ある人に取りに来てくださいというホームページやYOUTUBE だとかではなくて、エネルギー問題、本当に日本で大事な問題だから、皆で原子力だけじゃなくても学ぼうよというのであれば、ぜひ教育に組み込んでほしいというのはずっと申し上げているわけですが、そこに関しては文科省がないので仕方ないのですが、縦割りじゃなくて省庁横断するのであれば内閣府の中でも縦割りは分かりますけれど、でも音頭取るのは内閣府しかないのではないかなと思って質問したのですが、ちょっとうまく応えていただけなくて残念でした。

最後に東電さんにも話をして、私の発言がうまく伝わらなかったのかわかんないのですが、ミスしないことを目的化していませんかという話をしたと思うのです。要は、その本来の目的は、健全に安全に運営されて私たちと共存していく発電所だよということだと思ってしまうので、その目的を見失ってしまってミスしないようにしよう、ミスしないようにしようと思ってしまうと、そのマインドがすごくネガティブになってしまうと思うのですね。先ほど、いろんな発電所の方々の姿勢とか思いの話をされていらっしゃる委員の方もいましたけれど、そういった意味で発電所の方は私たちの地域と一緒に働くというか、一緒に共存していく健全な発電所としてのあるべき姿としてなっていくためにミスを減らしてかなければいけないというところに、その取組方とかマインドみたいなものがネガティブ思考に陥っていただきたくないという意味で申し上げたので、最後に補足しておきます。以上です。

#### ◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。私、時間があつたら最後にしゃべります。オブザーバーの方からお願いしたいと思います。渡邊所長からお願いします。

◎渡邊 柏崎刈羽原子力規制事務所長（原子力規制庁）

原子力規制事務所の渡邊です。情報共有会議に関しては、私個人としては3回目の出席をさせていただきました。そういった意味では毎回いろんな貴重なご意見、コメントをいただいていると思っています。例えば、今回の情報共有会議では、発電所が長期停止しているという状況において、例えば、運転員の訓練であったり、力量が不安とのコメントについて、我々は検査等で当然確認はしていくのですが、そういったところも、しっかりと説明を今後していかなければいけないなと思いましたが、あとは、原子力防災の観点でいろいろな意見等あった中で、我々の関係として言うならば、緊急時のUPZについては屋内退避をお願いしているところですが、そこについての有用性が、やはりちゃんと伝わっていないというか、元々、我々の周知の仕方もまだ十分ではないのかなというふうには思いましたので、このへんは少し改善していきたいなと思っています。以上で終わります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、エネ庁さん、お願いします。

◎前田 原子力立地政策室長（資源エネルギー庁）

資源エネルギー庁です。まず、本日で246回ということ、そしてまたここに20年にわたるご議論を、ご多忙の中、本当にしていただいていること、毎度、毎度そうですが、敬意とその重みを感じているところでございます。情報共有会議、先ほど緊張感というお話がありましたが、説明者の山田も同様であったと思います。時間も超過してしまった部分もあると思いますし、終盤は少し説明も急いでしまった面もあると反省しているところです。本日もそうですが、毎度、毎度、さまざまなご意見、実は私共も本当に毎回、勉強をさせていただいているところですし、そうした中で今日もこうして聞かせていただきましたが、縦割りになっているんじゃないか、あるいは回答がいつも同じじゃないかというご指摘、改めて肝に銘じておきたいと思います。

エネルギー政策、それは閣議決定をされているわけですし、万が一の時は事故収束あるいは避難も含めて関係法令に基づいて国が責任をもって対応していくということは記載されておりますので、しっかりと関係省庁で連携して、対応して参りたいと思います。

それから、興味、関心を持っていただいている委員の皆様ですが、今日、ご議論にありましたように、やはり、自分事の話だぞというご指摘、それからスイッチを入れれば電気が必ず点くということの保障、これは本当に大事なことだと思います。当日、会長からもお話がありましたように、電気が足りるのかというお話でございますが、ここはまさに私共一番の危機感、特にこの東日本の状況、そして将来的にはAI、さまざまなもので爆発的に増えていくといったような見解の向きもある中で、いかに安定的に供給していくかということが一番大事なお話ですので、このあたりしっかりと危機的な状況も含めて説明をしていきたいと思っています。温暖化も同様で、COPが海外で行なわれていますが、原子力についてまた増やしていこうというような議論もなされているのも現状です。一方でご指摘いただきました、高レベル放射性廃棄物を含めてさまざまなご懸念が原子力にあ

るというのも事実ですので、もっともっと積極的に国が前面に立ってということかと思っておりますし、ご指摘いただいたようにやはり学生、エネルギーは将来にわたっても、とても大きなお話ですので、今週末も四国の学生と議論をして参りますが、本当に学生の方も含めて、いかにわかっていただくか、議論していただくか、あるいはご意見をいただくか、こういったことを精力的に進めていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、新潟県さん、お願いします。

◎倉島 課長補佐（新潟県・防災局原子力安全対策課）

新潟県原子力安全対策課の倉島です。当日、情報共有会議に出席をしておりました原子力安全対策課長金子からのコメントを預かって参りましたので読み上げさせていただきます。

「情報共有会議で委員の皆様の多様な意見、また活発な意見交換を拝聴し、地域の皆様の柏崎刈羽原子力発電所に対する思い、強い思いを改めて認識致しました。新潟県に対しては避難計画や避難路の整備に対するご意見、ご質問を多くいただきました。県と致しましては引き続き、国、市町村、関係機関と連携し避難計画の実行性向上に向けた不断の取り組みを行って参ります。

また、今年度の原子力防災訓練は国と合同で実施いたしました。例年より規模が拡大し、国と関係機関との協力体制もより実際に近いかたちとなり、内容も充実した訓練を実施することができました。県と致しましては引き続き、さまざまな想定や避難手段による訓練を実施することによって原子力災害時、原子力災害等における対応力の更なる向上を図って参ります。今後も地域の会の委員の皆様とコミュニケーションの場をいただきながら県民の皆様のお安全と安心を第一に取り組んで参りたいと思っております。」以上になります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、柏崎市さん、お願いします。

◎吉原 課長（柏崎市防災・原子力課）

はい、柏崎市、吉原でございます。情報共有会議、大変ありがとうございました。

委員全員の意見、課題をお聞きし、十分な回答ではなかったということもあったかと思っておりますが、それぞれの思い、考えを皆さんが共有できたことは、非常に良かったのではないかと考えております。ただ、その場で終わりということではなくて、その課題や疑問について引き続き整理をして、検討、取組を継続していくことが非常に大切だと思っております。情報共有会議も通常のこの定例会もそうですが、引き続きこういった場において知識、思いを深めて、有意義な会になっていければと思っております。

市としても原子力防災に関する知識啓発を積極的に進めていき、市民の安心、安全につながればと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、刈羽村さん、お願いします。

◎三宮 主任（刈羽村・総務課）

刈羽村総務課の三宮です。情報共有会議、大変お世話になりました。ありがとうございました。皆様からさまざまなご意見をいただくことができて、すべてにきちんとご納得いただけるような回答ができたかどうかは分からないのですが、ご意見を頂戴できたこと、心から感謝をしております。

今、お話をお聞きしていて、やはり関心を高めていくとか、良いところの発信をしていく、自ら示していく、そういった発信をすることが非常に大事なことのなのだなというのを改めて感じたところでございます。

行政としてできる発信の仕方には限りはあるかもしれませんが、積極的な広報の仕方を今後も検討して参りたいと思います。

また、村長が申し上げたとおり、少しずつかもしれないけれども進化を続けていくということは、非常に大切なことだと思いますので、今後もできることを一つずつ確実に前進できるよう、取り組んで参りたいと思っております。ありがとうございました。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。それでは最後に東京電力さん、お願いします。

◎稲垣 発電所長（東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所）

発電所長の稲垣でございます。私自身は情報共有会議、3回目の出席となりまして、毎回毎回、非常に有意義なご意見を頂戴しているというふうに考えています。今回も非常に重要なご意見をいただいたと思っています。

今ほど三井田副会長から、ミスゼロにするということについてのお話があったけれども、私共、ミスゼロにするというのは非常に困難で、それは舵取りを誤ると考えています。ミスが起こった場合というのは、やはりしっかり原因を分析し再発を防止していく。そしてより大事なのは、大きな遅延に繋がらないということかと考えています。このようにやっていくには、やはり自律的且つ継続的に、まず改善していくという仕組みが非常に重要かと思っております。それも所長として業務の質を高めるよう努力して参りたいと思います。また、私自身は、やはり福島第一の事故を現場で経験した者として、あいつた事故を絶対に起こさないというところで、反省を忘れることなく常に高めて参りたいと考えています。

引き続き委員の皆様からの声をしっかり受け止めまして、安全、安心な発電所の実現に向けて一つ一つ進めて参りたいと思っておりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。以上で、フリートークのほうを終えたいと思います。、オブザーバーの方々におかれましては、年に1回の情報共有会議、トップの方々そして責任者の方々からご出席いただきましたこと改めまして感謝申し上げます。ありがとうございました

ございました。

今、委員の方々からも意見があった中で、やはり年に1回しか情報共有会議はないわけですので、また運営委員会でも協議させていただきますけれども、今いただいた意見を少しでも反映して、時間的制約もありますけれども、年に1回の情報共有会議がより良きものになるように協議していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いしたいと思います。

私の感想は、運営委員会の時にお話します。時間だいぶ押しているのです、申し訳ありません。

それではここで、246回の定例会を締めたいと思います。事務局お願いいたします。

#### ◎事務局

はい、次回の定例会についてご案内します。

次回、第247回定例会は、令和6（2024）年1月10日水曜日、午後6時30分から、ここ、柏崎原子力広報センターで開催します。

本日、取材は1階のエントランスホールで8時50分までとさせていただきます。

以上を持ちまして、地域の会第246回定例会を終了します。ありがとうございました。

— 終了 —